島根県公立小中学校
事務職員研究会
会　長　：　吉　賀　孝　則
（浜田市立国府小学校）
編　集　：　情　報　部
VOL.74　2022.8.8（夏祭号）
発行責任者　坂井 佳恵（大和中学校）
島事研ホームページ
http://www.oh-net.com/~kenjiken/

爽

【　目　次　】

- 会長就任にあたって（会長）
- 研究部コーナー
- 事業部の取組
- 島根県教育庁総務課に勤務して
- 研修報告
- 学校紹介
- まんが「しまじぃとけんくん」
- 編集後記

会長就任にあたって

会　長　　吉　賀　孝　則

会長として２期目となりました、浜田市立国府小学校の吉賀孝則です。本会の目的「会員相互の連携をもとに学校事務の研究、学校事務職員制度の確立を推進し、会員の資質向上を図り、もって本県学校教育に寄与する」の達成及び発展のために、役員とともに尽力いたしますので皆さまのご理解とご協力をお願いいたします。

島事研ビジョン２０２０を策定してから３年目となりました。キーワードは「ミッション」「ゴール」「ストラテジー」「バリュー」です。会員相互で共通理解をしていただき、よりよい島事研活動を推進していきたいと考えます。今一度、「島事研ビジョン２０２０」を島事研ＨＰ等でご確認いただければと思います。

６月３日に代議員会を大田市民会館で開催し、今年度の事業・予算等が承認されました。これにより、本格的な島事研活動がスタートしました。主要事業である研究大会とセミナーですが、コロナ禍により令和２年度は両事業とも中止としました。令和３年度は、参集型での開催を計画しておりましたが、研究大会は紙上発表・オンデマンド配信に変更し、セミナー兼中国地区事務研大会は、残念ながら中止としました。今年度は、研究大会を１１月１１日に江津市総合市民センターで、セミナーは１月２０日に出雲市民会館で開催を計画しております。両事業とも終日・参集型で開催できるよう、準備を進めておりますので、多くの方の参加を期待しております。

６月下旬からの猛暑に加え、新型コロナウイルス感染が再拡大しています。感染防止対策のマスク着用や行動制限等は緩和傾向ですが、収束へはまだまだ時間がかかりそうに思えます。役員一同、今後のウィズ・コロナ時代を見据え、会員の皆さまに還元できる取組を検討しながら、本研究会の歩みを進めていきたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

研究部コーナー

＝全事研が進める研究と島事研の研究＝

６月に開催された理事会・代議員会において、今年度の「爽」に掲載する内容は、島事研という組織の外を意識しながら、研究に関する情報発信をしていきたいとお伝えしました。

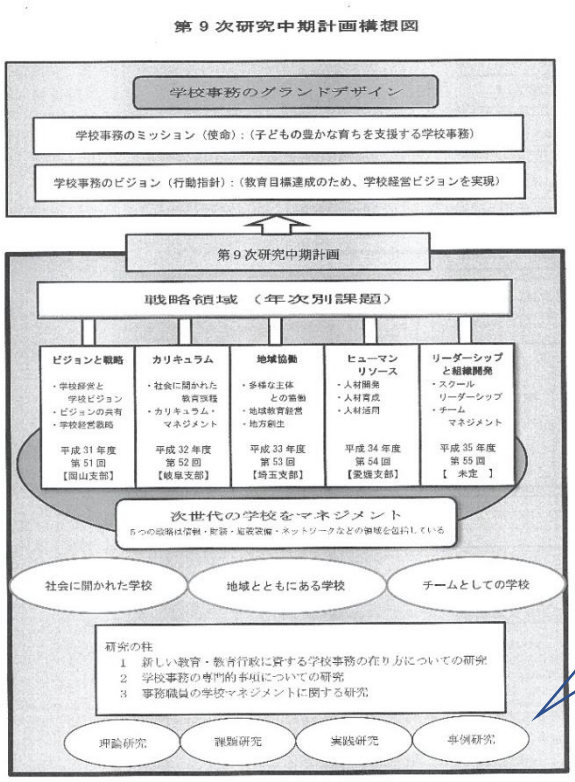
お伝えしたはいいものの、これといったアイデアがあったわけではなかったのですが、情報発信を行うための情報収集を行う中で、今回は全事研が定めている研究中期計画を紹介しながらの発信をしたいと思います。

「全事研」の正式名称は「全国公立小中学校事務職員研究会」です。

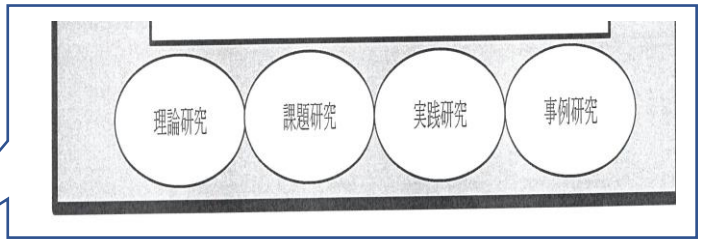
そして私たち島事研は、全事研に組織加入し、全事研島根支部として位置づけられています。

島事研では今年度から第六次研究中期計画がスタートしましたが、全事研は現在第９次研究中期計画の最中となります。

次の表は、全事研第９次研究中期計画です。



※全事研ホームページ掲載
　第９次研究中期計画より抜粋
　よって各種情報は掲載時のまま



※縮尺変更し、一部を拡大

年度ごとに年次別課題が定められていて、それに沿って研究大会が開催されています。

また、各支部が発表する際には、年次別課題に沿った内容で発表することになっています。

今回注目したいのは、研究への取り組み方です。全事研では「理論研究」「課題研究」「実践研究」「事例研究」の4つの取り組み方を掲げています。

それぞれがどのような研究なのかは、インターネット等を使って、お調べください。

島事研第六次研究中期計画における『基礎研究』は、この中でも「実践研究」や「事例研究」に重点をおいた活動になっているのではないかと感じています。

このように、私たちが行っている研究活動は様々な取り組み方があるということを知り、そして自分はどの取り組み方で研究を進めているのかを考えてみてはいかがでしょうか。

研究部長：沖田和彦（柿木中）　部員：石原菜奈子（松江二中）　木戸清治（仁摩小）　友塚　暁（掛合小）
長本法恵（高津小）　光谷和也（海潮中）　渡部大吾（有木小）

事業部の取組

研修部

研修部では、研究大会の企画，セミナーの企画・運営、研修制度の確立、研修の充実について活動を行っています。今年度は参集型の研究大会の開催、また、昨年度は中止になってしまったセミナーの開催に向け準備を進めていきます。

学校事務職員の職務が「事務に従事する」から「事務をつかさどる」に改正され、学校事務職員がより主体的・積極的に校務運営に参画することへの期待が込められるなか，新規採用学校事務職員の研修の充実を図ることを急務とし、「新規採用学校事務職員研修プログラム（案)」を作成、提案をしています。このプログラムの提案も３年目を迎えました。よりよいものにするための検証を行っていきたいと考えています。

また、任命権者研修についても受講者にアンケートを実施し、今年度の研修の在り方等も含め研修内容の検証を行い、教育センターへ提案、情報交換をしながら研修の充実につながる活動をしていきます。

研修部長：土井こずえ（青陵中）　部員：久利美香子（津宮小）　曽田晃子（荘原小）　高木祐介（赤名小）
中西竜成（西野小）　西村道子（八雲小）　花松ひとみ（出東小）　柳浦悦子（川津小）

情報部

情報部の主な活動内容は、広報誌「爽」の発行です。今年度も３回発行の予定です。会員のみなさんにとってためになる内容にしたいという想いで、広報誌づくりに取り組んでいるところです。

また、島事研ホームページの管理・運営を行い会員のみなさんや関係諸機関等への情報発信を行っています。発信された情報がもとで、会員相互の交流や取組の参考につなげていきたいと思います。今年度は島事研ホームページのリニューアルを計画し準備を進めているところです。詳細が決まり次第会員のみなさんにお知らせしたいと思います。

広報活動の他に、事務職員情報の収集・整備や、全事研調査の協力も行っています。６月には事務職員調査にご協力いただき大変ありがとうございました。結果は研究集録に掲載します。

島事研の活動をみなさんにわかりやすく伝えられるよう、広報誌、ホームページづくりに取り組みたいと思っています。よろしくお願いします。

情報部長：坂井佳恵（大和中）　部員：天津史子（川本小）　石川大介（高原小）　岩谷勇良（鳥井小）
久保田雅之（浜田四中）　蘿　恵（大田一中）　野上　佳（弥栄中）

事務局

事務局は今年度入れ替わりがありメンバーも増えて４名で活動しています。主に予算管理、情報提供・収集、渉外、連絡調整を行っています。また研究大会の運営面では準備委員会・役員会間の調整役を担っています。

今年度は、情報提供について６月６日付「島事研からの連絡方法の変更について」で会員の皆さまにお知らせしていますが、タイムリーに、そして確実に情報提供できるよう kintone（キントーン）を活用していきたいと思っています。まだログインされたことがない方も是非この機会にご利用いただきますよう、ご理解、ご協力のほどお願いいたします。

おわりになりますが、島事研活動が円滑に行われるよう事務局全員で頑張りますのでよろしくお願いいたします。

事務局長：山本一希（江津中）　事務局員：板持和史（古江小）　土尾奈央（稗原小）　宮内裕樹（益田小）

島根県教育庁総務課に勤務して

島根県教育庁総務課　今岡孝章

島根県教育庁総務課給与Ｇに異動してから、早くも３年目になりました。初めの頃は戸惑うことばかりでしたが、ようやく少し慣れてきたかなというところです。

給与Ｇでは、手当や旅費などについての質問に回答したり、通知を発出したりする仕事があります。自分の作成した回答や通知が今後の取扱いに影響するため、とても責任がある業務だと感じています。

回答や通知を作成する際は、条例・規則・運用方針はもちろん、過去の事例や通知なども調べます。調べる中で、今まで意識していなかったこと、よく分からないまま処理していたことなどに気付くこともあります。また、制度や取扱いを定めた当時の経緯や考え方なども知ることができ、とても勉強になります。

調べても分からない時や判断に迷う時は、同僚や上司に相談や協議をします。県職員の方々は、様々な部署を経験しておられることもあり、思ってもみない視点で意見やアドバイスをいただくこともあります。自分より年下の職員でも、鋭い指摘をしてくれることもあり、頼もしく思います。学校現場では、条例や規則、制度などについてすぐに相談できる相手がおらず心細かったため、自分以外にも職場に行政職員がいることのありがたみを感じています。

このような業務を行う際は、「給与Ｇの職員としての立場（制度面）」と「学校事務職員としての立場（実務面）」の両方から考えるよう意識しています。しかし、時が経つにつれ、だんだんと現場感覚が薄れてしまっているように感じます。学校事務職員の皆さんとお話しする中で気づかされることもたくさんありますので、何か思うことがあれば、お気軽にご連絡ください。（お手柔らかにお願いします。）

給与Ｇでの業務は大変なことも多いですが、学校現場で勤務しているだけではできない貴重な経験もさせていただいています。少しでも皆さんに還元できるよう、これからも職務に励んでいこうと思います。

教職員等中央研修（第４回事務職員研修）研修報告

出雲市立みなみ小学校　三浦　雄一郎

令和３年 11 月８日（月）～11 月 12 日（金）の５日間、独立行政法人教職員支援機構が主催する、教職員等中央研修（第４回事務職員研修）を受講しました。本来であれば、茨城県つくば市にある教職員支援機構内の施設に宿泊し、研修に没頭する１週間となるところですが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響によりオンライン研修となり、島根県内にいながらの受講でした。

コロナ禍による行動制限により、リモートワークが一般化し、学校でも GIGA スクール構想に基づき、１人１台のタブレット型パソコンの配備、利活用が瞬く間に進展しました。中央研修についても、前年度は講義動画を視聴するオンデマンド型の研修が行われたようですが、令和３年度は Web 会議システム（Zoom）を活用したオンライン研修でした。ブレイクアウトルームやホワイトボード、チャット等の機能を活用し、グループ協議や演習もそれほど不自由を感じることなく行うことができました。他方で講師や受講者の視線や表情、身振り手振りといったしぐさなど、対面であれば意識せずに受け取ることができる情報の重要性も実感しました。また、中央研修では、全国から集まった受講者同士が自由に情報交換をしたり、親睦を深めたりする機会を持つことができることも良さの一つだと思いますが、そのような時間が制限されたことも残念に思いました。オンライン研修も一つの良い研修のあり方だと思いますが、新型コロナウイルス感染症が終息し、従来型の中央研修を行うことができる日が来ることを願うばかりです。

さて、受講した第４回事務職員研修には、島根県からの２名を含む、３５名の事務職員が参加しました。また、同日開催の校長研修には４２名の参加がありました。５日間の研修期間のうち、最初の２日間と最終日は校長との合同の研修、３日目と４日目に事務職員の職務に特化した内容の研修プログラムが組まれていました。このようなプログラムとなっているのは、複雑化・多様化する学校の課題に対応するためには、学校の組織力強化が必要であり、事務職員が学校経営参画職として、校長のリーダーシップを支え、ミドル・リーダーとしてマネジメント力を発揮することが求められているからです。そのような能力を育成するため、学校組織マネジメントやカリキュラム・マネジメント、スタッフ・マネジメント、コミュニティ・マネジメント等の研修を受けました。個々の内容を全て報告することはできませんので、受講を通じ最も強く感じたことをお伝えします。それは島根県公立小・中義務教育学校事務職員人材育成基本方針にもあることですが、“学び続けること”の大切さです。社会のあり方が大きく変わり予測困難な時代へと進む中、学校もそれに応じて変化を求められています。社会の要請に応え、子どもたちの確かな成長を支える学校であり続けるためには、学校が、そして学校に携わるもの全員が進化し続ける必要があります。しかし、当然のことですが、一人で学ぶことには限界があります。この島事研や各市町村の研究・研修組織、或いは OJT や事務グループ活動等、チャレンジする機会や振り返り考える機会を生かし、みんなで一歩ずつレベルアップしていきたいと思いました。

報告の最後に…一緒に研修を受けたグループの事務職員共通の心配事が「この一週間の反動が…」と「学校の机上が…」でした。私の場合は予想に反し、書類が山積みになっていることもなく、整然とした机上でした。一週間にわたる研修に快く送り出していただいたうえに、その間のバックアップまで。本来の意味とは少し異なるかもしれませんが、“チーム学校”のありがたみをひしひしと感じました。

学校紹介 益田市立益田小学校

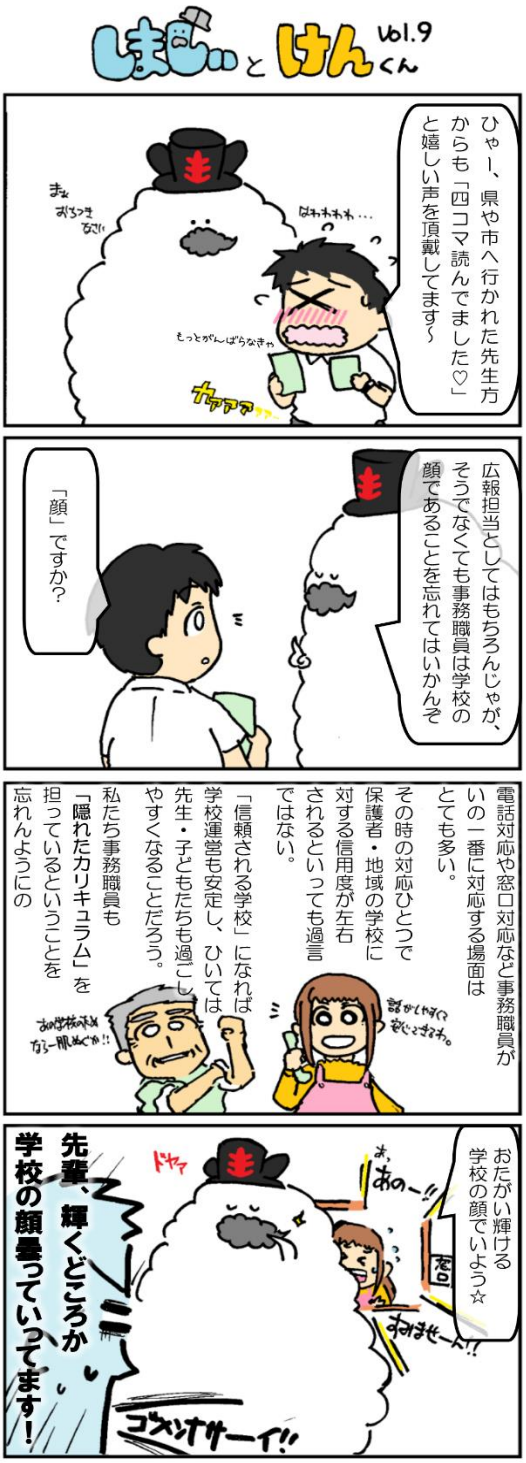
宮内 裕樹

益田市は、今年市制70周年を迎え、コロナ禍で制限がある中でも石見空港マラソンや記念フォトコンテストなど様々なイベントを開催し、市を挙げて盛り上げています。

さて、本校は校区が2キロメートル圏内とコンパクトながら、国重要文化財の寺院のほか警察署、裁判所、合同庁舎といった官公庁も多く点在し、また保育園・幼稚園が4園、中学校1校、高等学校3校、県立石見高等看護学院など教育施設も充実した、落ち着いた雰囲気が漂う町にある学校です。その中で、全校302名の子どもたちは新型コロナウイルスや酷暑にも負けず元気いっぱい学校生活を送っています。

そんな本校が今年度注力して取り組んでいるのが「ますだ力」の育成です。「ますだ力」とは、ま なびに向かう力、自分をす きになる力、た れかとつながる力のことで、特別活動を中心に子どもたちの非認知能力向上を目指しています。研究主任や学年主任と活動内容を確認しながら選定した教材を子どもたちが日々の学習に使っている姿、そしてそれが記録として教室や廊下などに掲示してあるのを見るたびに嬉しく思います。特に今年度は、先生方と密に相談しながら取り組むことができており、また児童からも「こんなことやったよー」と学習の様子を教えてくれることも増えたので、嬉しさもひとしおです。

これからも子どもたちの学びを支える事務職員として先生や子どもたちの声をしっかり聞いていきたいと思います。



原作・画　：　佐伯　圭一

【編集後記】

『ちむどんどん』 ご覧になっている方もおられると思います。これは沖縄の方言で「胸がわくわくする気持ち」を表すそうです。みなさん、最近『ちむどんどん』していますか？私は、このコロナ禍で『ちむどんどん』することが減ってきたなーと感じています。ですが『せきコンコン』にびくびくするのではなく、些細な出来事にも『ちむどんどん』して、このコロナ禍を乗り切りたいと思います。なんくるないさー（挫けずに努力すれば、いつか良い日が来る）ですね。F.A